

# 診療情報管理士教育に役立つ模擬患者診療記録の作成と活用

○井上理恵<sup>1)</sup> 外山比南子<sup>1)</sup> 伊藤由美<sup>1)</sup> 横山重子<sup>2)</sup>

1) 国際医療福祉大学大学院 2) 国際医療福祉大学

## 【背景】

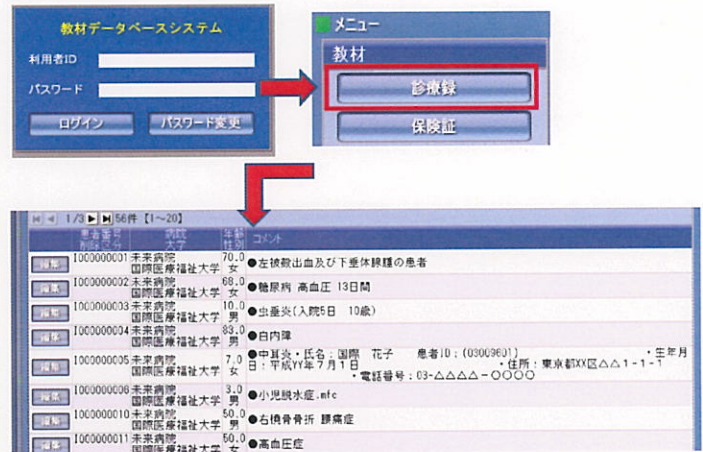
医療ではIT化が進み、オーダーリングシステムや電子カルテを導入した医療機関が増加しつつある。文部科学省は、平成20年に、地域貢献や多様な社会的ニーズを踏まえた「知の拠点」としての人材育成を担う観点から、大学教育充実のための戦略的支援プログラムを開始した。そこで、平成21年度、国際医療福祉大学を始めとする7大学を中心に、電子カルテを用いた教育のための教材データベースの開発、7大学連携による戦略的支援プログラム（以下支援プログラム）が採択された。今回、教材用診療記録に焦点を当て、模擬患者診療記録（以下診療記録）作成の工夫や活用方法などを紹介する。

## 【目的】

出来るだけ、多職種が関連する事実に基づいた診療記録を作成し、データベース化して診療情報管理士などの教育に利用し、評価することを目的とする。

## 【方法】

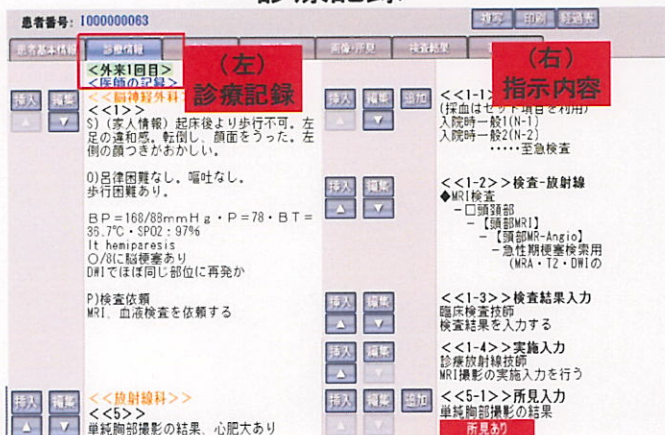
支援プログラムで提供された症例を基に、「医療チーム」をキーワードに、医師の指示だし、看護師の指示受けケアの実際、薬剤師や栄養士の指導内容、リハビリの実施記録など、医師や看護師、薬剤師、リハビリ、検査など各職種間の関わりと、実際の流れが分かるような内容に工夫し、検査や病理結果を揃え診療記録を作成する。図1に、本研究で開発された教材データベース患者一覧を示す。現在56症例登録している。



☆登録数:56症例(オリジナル再加工したもの)  
☆オリジナル登録数:18症例 ☆国際医療福祉大学現在

図1 教材データベースシステム患者一覧

## 診療記録



### POINT⇩

多職種の診療記録により、職種間連携と医療行為が分かる

図2 診療記録の実際

次に、図2に診療記録の実際を示す。

左側には各職種の診療記録を記載し、右側には医師の指示内容または診療報酬算定可能な内容を記載している。また、画像や血液検査、心電図などの検査結果も参照できる診療記録となっている。

図3では、印刷した際のイメージを示す。帳票や職種など選択し印刷することも可能である。

作成された診療記録の評価方法は、実際に使用した学生や講師から直接反応を聞き、手直しを行いながら完成度を高めていく。なお、臨床経験のある者がその作成にあたる。

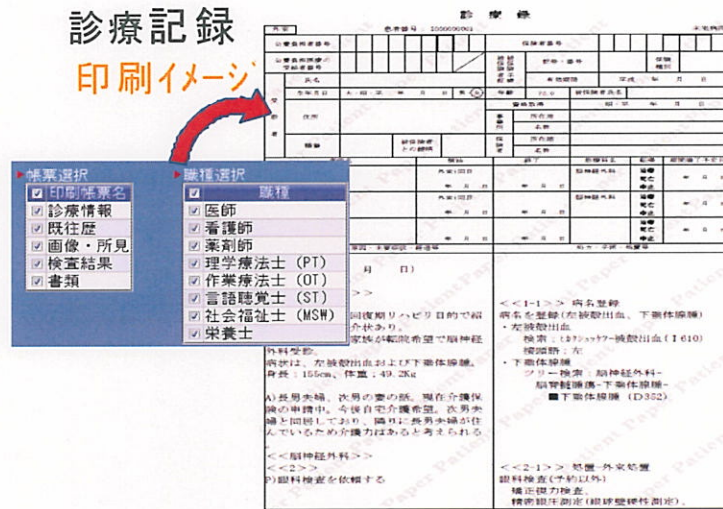


図3 診療記録 印刷イメージ

【結果】

この診療記録を利用して、実際に、医師や看護師の他、薬剤師、リハビリ検査など各職種が患者にどの様に関わっているのか、電子カルテに登録しながら学んでいる。他にも、当国際医療福祉大学院では、診療情報アナリスト養成分野において、電子カルテ登録演習はもとより、サマリーを作成しそれを学院生同士で監査する、また、診療記録を監査するなどの教材として利用している。更に、利用方法として各書類の作成実習に利用できるほか、病名コーディングの教材としても利用でき、それぞれの目的に合わせた教材にすることが可能である。図4に、学生および教員から直接口頭にて得た意見を一部紹介する。

結果

大学



- ・電子カルテ登録
- ・ロールプレイ

大学院



- ・カルテ開示
- ・サマリー作成および監査
- ・がん登録

【大学生感想】

- ・一人の患者に、あらゆる職種が関わっていることが分かった。

【教員感想】

- ・ロールプレイのシナリオに利用できた

【大学院生感想】

- ・サマリーに記載すべき情報の選択が容易ではなかった

【教員感想】

- ・電子カルテを使用できるうえ、授業のねらいも網羅できた

図4 学生および教員から得た意見

幅広い視点育成へ向けた教材として利用可能！

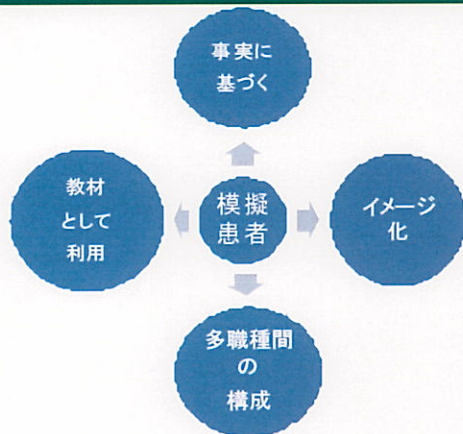


図5 模擬患者の有効活用

【結論】

現在の診療情報管理士教育機関において、座学を中心に教育が行われているが、現実に即した診療記録を教材として用いることで、学生のイメージ化を図れるばかりではなく、各職種間の構成と業務内容の理解、また、患者を取り巻く医療と地域のかかわりなど幅広い視点育成へ向けた教材として活用できるものと考えられる(図5)。